

コラム：4月に発生が予想される病害虫について

1 炭疽病の防除対策

本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけまでの防除対策を徹底しましょう。

1 発生生態および被害

- (1) 葉、若い茎、新芽、花序、果実に発生する(図1)。
- (2) 未熟果で本病原菌は潜在感染(症状を示さない)して、収穫後、追熟とともに発生する。
- (3) 残渣上で長期間生存するため、伝染源になると考えられる。

2 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- (2) 袋がけ前までに登録薬剤を組み合わせたスケジュール散布を行う(表1)。



図1 果実の病徴

(写真:澤岬哲也氏提供)

表1 登録薬剤を組み合わせた薬剤散布スケジュール(一部抜粋)

生育状況	結実期	果実肥大期		
		4月	5月	6月
散布月	3月	4月	5月	6月
薬剤	Kr	Kr	Kr	AZ

Kr:クレソキシムメチルDF(2000倍)

Az:アゾキシストロビン10F(1000倍)

2 ニガウリにおけるミナミキイロアザミウマの防除対策

今後の気温上昇に伴い、ニガウリの施設栽培において、ミナミキイロアザミウマ(図2)の発生が増加すると予想されます。収穫果実に奇形やケロイドを引き起こし(図3)品質を下げるので、本種の防除対策を徹底しましょう。

1 発生生態および被害

- (1) 口針を植物に刺して吸汁したり、植物内に産卵して組織を傷つける。
- (2) 卵は植物の組織内に産み付けられるため、表面から観察することはできない。
- (3) 寄主範囲が広く、野菜のみならず雑草でも増殖することが知られている。

2 防除上注意すべき事項

- (1) 施設開口部には目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- (2) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。



図2 ミナミキイロアザミウマの成虫



図3 ミナミキイロアザミウマによりケロイド状になった被害果(上:健全果、下:被害果)

コラム：4月に発生が予想される病害虫について（続き）

3 オクラにおけるトンネル被覆除去後のアブラムシ類の防除対策

春先に、アブラムシ有翅虫が多くみられます。露地栽培のオクラ圃場でも、トンネル被覆を除去するこの時期にアブラムシ類が飛来し、急激に増殖します。生育初期にアブラムシ類に多く寄生されると、オクラは生長が著しく阻害されることから、こまめに発生状況を確認し、早期防除するよう努めましょう。

1 発生生態および被害

- (1) 葉裏、蕾、幼果など、あらゆる部位に寄生する(図4)。
- (2) 生長点付近に寄生すると、葉の奇形や生長抑制を引き起こす。
- (3) 多発すると排泄物によりすす病が誘発される。

2 防除上注意すべき事項

- (1) シルバーポリテープ等を利用して飛来を防止する。
- (2) 圃場周辺の雑草は発生源となるので除草する。
- (3) 露地では天敵による密度抑制も期待できるので、殺虫剤の多用は避ける。



図4 オクラの葉裏にコロニーを形成するアブラムシ類